

令和3～5年度の民間所在資料保存状況調査について —田辺市・上富田町—

藤 隆宏

令和3年度から同5年度にかけて和歌山県立文書館（以下「文書館」という。）が実施した民間所在資料保存状況調査（以下「民間所在資料調査」という。）について報告する。

なお、令和3年度は、「地域に眠る「災害の記憶」と文化遺産を発掘・共有・継承する事業」（以下「災害の記憶」事業」という。）に文書館が参加する中で民間所在資料調査を実施した。令和4年度及び同5年度は、文書館が、和歌山県立博物館から調査員派遣等の協力を得ながら、民間所在資料調査を行う中で「災害の記憶」事業の取組の一部を引き継いで実施した。

1 令和3～5年度の「災害の記憶」事業・民間所在資料調査

（1）令和3年度の「災害の記憶」事業

令和3年度は、平成26年度以降連続して採択されてきた文化庁補助金事業である「災害の記憶」事業最後の年となった。「災害の記憶」事業は、実施主体である和歌山県立博物館施設活性化事業実行委員会（以下「実行委員会」という。）の下、和歌山県立博物館を中心に同県教育庁文化遺産課、文書館、和歌山大学、地域資料ネット「歴史資料保全ネット・わかやま」等が協働し、例年、事業対象地域内における過去の災害に関する記録、記念碑、口碑、痕跡、遺跡等を中心に、未指定のものを含む文化財の所在確認調査を行い、その成果を小冊子『先人たちが残してくれた「災害の記憶」を未来に伝える』の発行及び現地学習会「歴史から学ぶ防災一命と文化遺産とを守る」の開催により地域に還元するものであった。⁽¹⁾ 令和3年度は、事業対象地域を田辺市のうち旧田辺市域、旧大塔村域及び旧中辺路町域⁽²⁾並びに西牟婁郡上富田町として、両市町教育委員会の協力を得て実施した。⁽³⁾

令和元年度後半から深刻化した新型コロナウイルス感染症の流行は、令和3年度においては第四波（アルファ株の影響）・第五波（デルタ株の影響）・第六波（オミクロン株の影響）の感染拡大があった。⁽⁴⁾したがって、平成30年度まで行われたような大人数が合宿して行う調査の機会は少なく、全体として対象・日程・調査者が分散して調査が行われることとなった（表1）。

調査成果の地域への還元として、小冊子⁽⁵⁾を発行して田辺市及び上富田町の全戸に配布した。文書館は、同書にて次の報告を行っている。

- ・藤 隆宏「1854年安政地震津波・火災の記憶」
- ・砂川佳子「1889年明治大水害の記憶」

また、令和4年2月26日に上富田町、翌27日には田辺市⁽⁶⁾で現地学習会を開催する準備をし、広報も行っていたが、新型コロナウイルス感染症第六波の感染拡大により中止となり、予定されていた日時・会場で各報告の動画撮影のみを行い、インターネット上で公開することとなった。⁽⁷⁾同公開動画で、文書館は次の報告を行っている。

- ・藤 隆宏「1854年安政地震津波の記憶」
- ・砂川佳子「郡役所の生字引、明治22年大水害を記録する一字井可道「璞屋随筆」から—」

表1 令和3年度「災害の記憶」事業調査等一覧

	調査実施日	調査等対象市町	備 考
1	令和3年6月18日	上富田町	田辺市・上富田町との打合せも行う
2	7月8日	田辺市（旧市域）	
3	8月1日	田辺市（旧大塔村）	文書館は不参加
4	8月8日	田辺市（旧市域・旧大塔村）	
5	8月19日	上富田町	文書館は不参加
6	8月30日	田辺市（旧市域）	文書館は不参加
7	9月3日	田辺市（旧本宮町）	文書館は不参加
8	9月4日	新宮市	平成29年度事業関連。文書館はオンライン参加
9	9月8日	田辺市（旧市域）	
10	10月22日	田辺市（旧市域）・印南町	印南町は平成28年度事業の関連調査
11	11月3日	田辺市（旧市域・旧大塔村・旧中辺路町）	文書館は不参加
12	11月3日～4日	田辺市（旧市域）・上富田町	田辺市との打合せも行う
13	11月5日	上富田町	上富田町との打合せも行う
14	11月8日	上富田町	文書館は不参加
15	11月10日	田辺市（旧市域）・上富田町	
16	11月17日	田辺市（旧市域）	田辺市との打合せも行う。文書館は不参加
17	11月23日	田辺市（旧市域）・上富田町	文書館は不参加
18	12月7日	田辺市（旧市域）・上富田町	文書館は不参加
19	12月9日	上富田町	文書館は不参加
20	12月15日	田辺市（旧市域）・広川町	広川町は令和2年度事業の関連調査。文書館は不参加
21	12月24日	田辺市（旧市域）	
22	令和4年1月12日	上富田町	
23	1月15日	田辺市（旧市域）・上富田町	文書館は不参加
24	1月20日	上富田町	文書館は不参加
25	1月29日	田辺市（旧大塔村）	文書館は不参加
26	2月2日	上富田町	文書館は不参加

（2）令和4・5年度の民間所在資料調査

「災害の記憶」事業は令和3年度をもって終了したが、文書館は、令和4年度以降も引き続き災害関連記録を中心とした民間所在資料調査を行い、成果を地元住民に還元する取組を継続することとした。ただし、国庫補助金の獲得や特別な予算措置等を行わず、文書館の通常業務内での取組とし、調査対象資料は文書のみとなった。なお、和歌山県立博物館からは調査者派遣等の協力を得ることができた。

令和4・5年度は、前年度に引き続いて田辺市教育委員会の協力をいただき、田辺市内の旧龍神村域、旧本宮町域及び前年度中に調査を行うことができなかった旧中辺路町域を主な対象地域として実施した（表2）。

調査成果の地域への還元としては、令和6年3月2日、田辺市文化交流センター「たなべる」にて報告会「歴史から学ぶ防災2023－命と文化遺産を守る－」を田辺市教育委員会と共催し⁽⁸⁾、次の報告を行った。一般参加者は27名であった。

- ・中川貴氏（田辺市教育委員会文化振興課）「田辺市内の津波記念碑」
- ・前田正明氏（和歌山県立博物館）「江戸時代、田辺を襲った地震津波」
- ・藤隆宏（文書館）「龍神村域の明治22年水害－上山路地区の文書から－」
- ・西山史朗（文書館）「昭和28年水害をふりかえる－請川村役場文書にみる復旧のようす－」

表2 令和4・5年度民間所在資料保存状況調査一覧

	調査実施日	調査等対象市町	備 考
1	令和4年5月27日	田辺歴史民俗資料館	
2	5月27日	田辺市（旧市域）	令和3年度事業の関連調査
3	6月17日	田辺市（旧本宮町）	
4	7月5日	田辺歴史民俗資料館	
5	8月19日	田辺市（旧龍神村）	
6	9月28日	田辺市（旧本宮町）	
7	10月31日	田辺市（旧龍神村）	
8	令和5年5月18日	田辺歴史民俗資料館	
9	5月20日	田辺市（旧龍神村）	
10	7月6日	田辺市（旧本宮町）	
11	9月20日	田辺市（旧中辺路町）・田辺歴史民俗資料館	一部令和3年度事業の関連調査
12	9月22日	田辺市（旧本宮町）	

（3）関連業務

上記の他、文書館は、下記のとおり「災害の記憶」事業・民間所在資料調査の関連業務及び調査成果を用いた研究報告・展示等を行った。

- ・パネル・ケース展示「『災害の記憶』を伝える石碑と古文書―地域に眠る『災害の記憶』と文化遺産を発掘・共有・継承する事業より―」（令和3年4月9日～10月21日）⁽⁹⁾
- ・藤隆宏「現在に伝えられた『災害の記憶』を未来につなげる」（令和3年12月3日、県立串本古座高校・文書館共催「百年の青春 はまゆう館」開設・「中根文庫」デジタルアーカイブ公開記念歴史講座（於 串本古座高校）での報告）⁽¹⁰⁾
- ・稲むらの火の館・県立文書館共催「稲むらの火講座」（令和4年10月9日、於稲むらの火の館、一般参加者54名）
砂川佳子「『夏の夜かたり』―地域資料からみる濱口梧陵と広村―」
- ・ケース展示「民間所在資料保存状況調査より 杉谷家文書（田辺市龍神村東）」（令和5年5月12日～7月12日）⁽¹¹⁾
- ・和歌山県立文書館開館30周年記念歴史講座「先人たちが残してくれた『災害の記憶』を未来に伝える」（全3回、於きのくに志学館講義・研修室）
令和5年11月26日 前田正明氏（和歌山県立博物館）「先人たちは、『災害の記憶』をどのように伝えようとしたのか。―記憶は後世に生かされたのか―」
令和5年12月3日 ①橋本唯子氏（和歌山大学）「災害にそなえるために―昭和28年水害から70年―」
②砂川佳子（文書館）「和歌山県歴史資料アーカイブでたどる昭和28年水害の記録―遠藤茂旧蔵資料を中心に―」
- 令和5年12月10日 藤隆宏（文書館）「先人たちは、被災後にどう行動したか。―湯浅・田辺の安政地震津波記録を中心に―」⁽¹²⁾
- ・国際会議「アジア太平洋地域における文化財防災の現状と課題Ⅲ―災害へのレジリエンスを高めるための減災の取り組みと事前の備え―」出席・報告（令和5年12月13日・14日、於奈良県コンベンションセンター）
藤隆宏「和歌山県における『災害の記憶』事業の取組」⁽¹³⁾

- ・産経新聞和歌山版「先人からのメッセージ 防災減災わかやま」執筆
令和3年8月29日 藤隆宏「田辺市串の水害記録と判明 三豊神社の檜板（田辺市面川）」
令和4年10月30日 藤隆宏「安政の大地震 田辺沿岸の被害と復興記録 「天変諸事記」（田辺市立図書館所蔵）」
令和5年1月15日 砂川佳子「郡役所の生き字引が記録した明治22年大水害 「璞屋随筆」（田辺市）」

2 民間所在資料調査結果報告

以下に令和3年度から同5年度までの田辺市・上富田町域における民間所在資料調査の結果を総轄し、報告する。ただし、盗難防止及び個人情報保護のため、本稿においても公的機関で保管されているものを除き、各文書群の内容紹介はせず、概要のみの報告となる。

表3は、調査した民間所在資料調査の件数、すなわち存否・所在確認ができた文書群の数である。計25件のうち、22件が過去の自治体史、和歌山県教育委員会が昭和40年度から昭和50年度にかけて調査を行い刊行した『和歌山県古文書目録』（以下「『目録』」という。）⁽¹⁴⁾ 及び文書館が平成9年度から平成17年度まで実施した前回の民間所在資料調査⁽¹⁵⁾ により、既に存在が知られていた文書群の再確認となる。そのうちの12件が、前回の調査で確認されていたもので、今回の調査で再確認となったものである。他方、新出文書群が3件あった。

本稿関係期間の調査は悉皆調査ではなく、災害関係記録の調査を優先したものであり、また、特に新型コロナウイルス禍の期間にあっては、文書館としては小冊子の発行並びに現地学習会及び報告会の開催・報告に必要な最小限の調査にとどめざるを得なかった。したがって、残念ながら存否確認ができた文書群はごく一部である。散逸が「確認」された文書群はなかったが、今回調査できなかった文書群のうち、少なからぬものが散逸している可能性がある。

表4は、前回の民間所在資料調査で確認されていた12件の文書群について前回調査と対比したもので、今回所蔵者の代替わり⁽¹⁶⁾ 又は保管場所の移動が確認されたものの件数である。4件の代替わり、4件の保管場所移動が確認された。保管場所の移動は、いずれも田辺市教育委員会への寄贈であった。

表5は、文書館が把握している、今回の調査対象地域を出所とし、現在は歴史資料保存利用機関に保管されている文書群の一覧である。文書群の一部でも公的機関で展示・保管されているものは掲載している。ただし、上述したように令和3年度はコロナ禍の中で文書館の担当する報告に関係の調査を優先したこともあって、上富田町における歴史資料保存利用機関の調査を行うことができなかった。また、田辺市については、職員が常時配置されている歴史資料保存利用機関として田辺市歴史民俗資料館及び田辺市立図書館の2館存在し、所蔵文書群も多いが、表5では文書館が直接調査・利用した文書群のみを採り上げている。

表3 令和3～5年度民間所在資料調査件数

市町名	全体	前回調査	散逸	新出	前回文書館調査年度
田辺市	23	10	0	3	平成9～11年度(旧本宮町) 平成12・13年度(旧田辺市・中辺路町・大塔村) 平成14・15年度(旧龍神村)
上富田町	2	2	0	0	平成12・13年度
合計	25	12	0	3	

* 1文書群を1件としている。

表4 前回の文書館民間所在資料調査の追跡

市町名	全体	代替わり	場所移動	散逸	前回文書館調査年度
田辺市	10	2	4	-	平成9～11年度(旧本宮町) 平成12・13年度(旧田辺市・中辺路町・大塔村) 平成14・15年度(旧龍神村)
上富田町	2	2	0	-	平成12・13年度
合計	12	4	4	0	

表5 公的な歴史資料保存利用機関等に保管されている文書群（平成29年度以降の民間所在資料保存状況調査等で確認したものに限る）

市町	地区名	文書群名	目録	その他出典	最終確認日	災害関係資料	現在の保管場所	一部資料を保管している公的機関
田辺市	中屋敷町	赤井家文書	5		H29.10.16		新宮市教育委員会	
	中屋敷町	小川家文書			-		文書館	
	湊	田所大庄屋文書	5		R3.7.8	「天変諸事記」他多数	田辺市立図書館	
		中松家文書		『市史第8巻』	-		文書館	
		旧あおい書店コレクション			R5.9.20		田辺市教育委員会	
	新庄町	鳥ノ巣区有文書			H29.6.9		神奈川大学日本常民文化研究所	
	龍神村殿原	古久保家文書	4	『龍神村誌 下巻』（目録）	R4.6.22	「往昔地震覚書」（安政地震） 「水害記録」「水害ニツキ嘆願書」（明治22年水害）	田辺市立田辺歴史民俗資料館	
	龍神村西	山本家文書	4		-		田辺市立田辺歴史民俗資料館	
	龍神村東	原家文書			R5.5.18		田辺市教育委員会	
	中辺路町栗栖川	真砂家文書	6		-		文書館（寄託）	
	中辺路町近露	野長瀬家文書	6		-		文書館（寄託）	
	本宮町上切原	音無家文書	9	『本宮町史 近世史料編』	R4.6.22	嘉永元年水害記録多数あり	田辺市立田辺歴史民俗資料館	
	本宮町松葉	和田家文書	9	新谷和之「天正一四年の熊野一揆に関する史料」	-			和歌山市立博物館
	本宮町伏拝	松本家文書	9		-		県立博物館	
	本宮町大居	榎本家文書		『本宮町史 近世史料編』	-	「（水害見積書の件）」（明治4年以前力）		本宮行政局町史資料室
	本宮町請川	請川区有文書		『本宮町史 近世史料編』 『同 近現代史料編』	R5.9.22	湯峯大火関係（明治36年） 「御用留帳」（宝永地震・撮影済）	田辺市本宮行政局町史資料室	
	本宮町久保野	久保野区有文書		『本宮町史 近世史料編』 『同 近現代史料編』	R5.9.22		田辺市本宮行政局町史資料室	
	本宮町	本宮町役場文書		『本宮町史 近世史料編』 『同 近現代史料編』	R5.9.22		田辺市本宮行政局町史資料室	
	本宮町大瀬	大瀬区有文書		『本宮町史 近世史料編』	-			本宮行政局町史資料室
	本宮町三越	栗栖家文書		『本宮町史 近現代史料編』	R5.9.22	「明治二十二年洪水荒所修繕見積」 「誓約証書（長命寺再建）」 「記（義捐金）」	田辺市本宮行政局町史資料室	
		植家文書		『本宮町史 近現代史料編』	R5.9.22		田辺市本宮行政局町史資料室	
	本宮町	請川村役場文書		『本宮町史 近現代史料編』	R5.9.22	昭和28年水害関係多数	田辺市本宮行政局町史資料室	
	本宮町	三里村役場文書		『本宮町史 近現代史料編』	R5.9.22	「指令書綴」（明治22年水害）	田辺市本宮行政局町史資料室	

* 「目録」欄の数字は、各文書群が掲載されている『目録』の号数（注14参照）を指す。

* 「最終確認日」欄に「―」とある文書群については、公的機関に保管されているものを除き、当該文書群の民間所在資料調査を行ったか否かを含めて本稿では明らかにしないことを示す。

田辺市本宮行政局町史資料室に保管されている文書群は、平成15年度まで旧本宮町において行われていた本宮町史編さん事業に伴い、同町史編さん室で保管されていたものである。編さん事業終了、市町村合併を経て、現在田辺市教育委員会の管理となっている。文書館に寄託されている2件の文書群は、前回の民間所在資料調査後に寄託されたものである。その他の旧田辺市域外を出所とする文書群で、博物館及び田辺歴史民俗資料館を含む田辺市教育委員会が保管しているものは、いずれも市町村合併後に所蔵場所が移動となったものである。旧龍神村域を出所とする古久保家文書、山本家文書及び原家文書並びに旧本宮町域が出所の音無家文書は、いずれも田辺市立田辺歴史民俗資料館又は同館に近い旧田辺市域で保管されている。

田辺歴史民俗資料館は、現在、平成24年に開館した田辺市文化交流センター「たなべる」に田辺市立図書館と併設されている。田辺市域の文書群を受け入れ、散逸の防波堤になっている。

現田辺市は、平成17年5月1日に旧5市町村が合併して誕生した。

現田辺市の規模を、合併前から文化財保存分野の専門職員を配置していた旧田辺市と比較すると、合

併により人口は約1.2倍、面積は約7.5倍に増加した。⁽¹⁷⁾ 当然、5つの自治体で行われていた文化財保護行政事務は統合された訳だが、文化財保護行政の対象となる（未指定を含む）文化財も増える。ただし、文化財の数は、現代の人口に比例する訳ではなさそうである。例えば、現田辺市内の国指定・県指定・市指定の有形文化財89件のうち、旧田辺市域のものは43件、その他の地域のものは46件⁽¹⁸⁾であり、市町村合併により倍増したといえる。また、注14で示した『目録』に掲載されている現田辺市域の文書群は80件で、これを旧田辺市域32件と比べると2.5倍となる。

また、合併直後の平成17年10月時点での国勢調査では82,499人だった人口は、15年後の令和2年では69,870人に減少している。⁽¹⁷⁾ 特に、旧田辺市域外では、旧田辺市域の倍以上、概ね3割近くの人口減少率となっている（表6）。つまり、旧田辺市域外では、旧田辺市域の倍のスピードで過疎化が進行している訳で、それに伴い保管場所を公的機関等へ移動しなければ散逸する恐れがある文化財・民間所在資料も増加しているものと推測される。現に、上述及び表5のとおり近年公的機関に収蔵されることとなった文書群は、旧田辺市域外のものが多い。

旧龍神村域及び旧本宮町域に歴史民俗資料館がない中で、上記のとおり田辺歴史民俗資料館が中心となって旧田辺市外を出所とする文書群を受け入れていることについては、市町村合併したことによって基礎自治体が民間所在資料を受け入れることによる散逸防止が可能になった事例として評価できよう。⁽¹⁹⁾ しかし、『目録』に569点の目録が収録されている古久保家文書⁽²⁰⁾及び4,810点の音無家文書⁽²¹⁾を受け入れたのであれば、収蔵庫のスペースが圧迫されつつあることは容易に推察される。

現田辺市においては、旧町村域における民間所在資料の受入れ（≡散逸防止）という、旧町村では困難であったと思われる業務を実施したということで、市町村合併による基礎自治体の広域化・巨大化のメリットを活かしたといえるが、それも困難になりつつあるのではないだろうか。

和歌山県内で第2位の人口規模である田辺市の状況は、また全県的・全国的に共通のものでもないだろうか。平成30年に大幅に改正された現行の文化財保護法（令和元年施行）は、「過疎化・少子高齢化などを背景に、文化財の滅失や散逸等の防止が緊急の課題であり、未指定を含めた文化財をまちづくりに活かしつつ、地域社会総がかりで、その継承に取り組んでいくことが必要。このため、地域における文化財の計画的な保存・活用の促進や、地方文化財保護行政の推進力の強化を図る。」という趣旨で改正されたものである。⁽²²⁾

合併により広域化した市町村における文化財の収蔵場所については、職員の配置されていない既存施設を活用するなどしながら⁽²³⁾、管理、整理等の人的な問題については、ボランティア等の民間の協力を得ながら「地域社会総がかりで」文書群の受入れ・継承を模索しなければならない段階かも知れない。⁽²⁴⁾ 一方、上富田町は、「平成の大合併」を行わず、単独町政が維持されているが、人口が増加し続けている。また、令和6年度には、学芸員を募集している。今後学芸員を軸に、町立郷土資料館の民間所在資料受入体制が強化されることを期待したい。

以上、大規模合併により誕生した広大な田辺市と、単独町政を続ける上富田町という対照的な地方自治体において民間所在資料調査を行った。両市町のように基礎自治体の有様は多様で、民間所在資料・文化財保護を取り巻く状況も多様であるが、県立の歴史資料保存利用機関として、文書館は、係る状況を把握し、各状況に応じたできる限りのサポートをするのが役割であろう。

そのためには、基礎作業として県内の民間所在資料の状況を把握し続けておくことが大事である。令和6年度は、民間所在資料の所在把握を第一の目的とした、民間所在資料調査の原点に戻った活動を海南市において行っている。

表6 田辺市内各旧市町村域の人口減少率

	人口（人）		減少率（%）
	平成17年	令和2年	
旧田辺市	68,117	59,873	12
旧龍神村	4,103	2,751	33
旧中辺路町	3,450	2,420	30
旧大塔村	3,259	2,378	27
旧本宮町	3,570	2,448	31
合計（田辺市）	82,499	69,870	15

*『田辺市統計書令和5年度版』p.8「人口の推移」表から加工

注

- (1) 「災害の記憶」事業は、平成26年度に「地域に眠る『災害の記憶』の発掘・共有・継承事業」としてスタートし、平成27年度以降は災害関連資料以外の文化財所在確認も行う「地域に眠る『災害の記憶』と文化遺産を発掘・共有・継承する事業」となり、令和3年度まで連続して文化庁補助金事業に採択された。令和3年度は、文化庁補助金事業「地域と共働した博物館創造活動支援事業」に採択された「みんなで和歌山の文化遺産を守り活用する博物館連携事業」を構成する事業の一つとして実施された。「災害の記憶」事業全般については「和歌山県立博物館における文化庁補助金事業報告」（『和歌山県立博物館ニュース』〈<http://kenpakunews.blog120.fc2.com/blog-entry-571.html>〉）令和6年9月2日アクセス）、「災害の記憶」事業と民間所在資料調査との関係性については拙稿「平成26年度の民間所在資料保存状況調査について―御坊市・美浜町・日高川町・那智勝浦町―」（『和歌山県立文書館紀要』第18号、平成28年）、令和2年度までの文書館に係る事業成果については同稿、「平成27・28年度の民間所在資料保存状況調査について―由良町・印南町・すさみ町・太地町・串本町―」（『同』第20号、平成30年）、「平成29・30年度の民間所在資料保存状況調査について―日高町・白浜町・新宮市・北山村―」（『同』第22号、令和2年）及び「令和元・2年度の民間所在資料保存状況調査について―湯浅町・広川町―」（『同』第24号、令和4年）を参照。
- (2) いずれも、市町村合併により平成17年5月1日に現田辺市が誕生する以前の旧市町村域
- (3) 実行委員会が文化庁に報告した「調査参加者」は次のとおり（職名は当時）。この他個々の調査ごとに協力参加した方がいる。
新井美那 和歌山県立博物館学芸員
後 誠介 和歌山大学災害科学・レジリエンス共創センター客員教授
鈴木裕範 和歌山大学客員教授
砂川佳子 文書館副主査
玉置将人 文書館副主査
藤 隆宏 文書館主任
西山史朗 文書館嘱託研究員
橋本唯子 歴史資料保全ネット・わかやま代表（和歌山大学「教養の森センター」准教授）
浜田拓志 歴史資料保全ネット・わかやま世話人（奈良文化財研究所客員研究員）
前田正明 和歌山県立博物館学芸課長
松原瑞枝 和歌山県教育庁文化遺産課技師
吉村旭輝 和歌山大学紀伊半島価値共創基幹紀州経済史文化史研究所特任准教授
- (4) 和歌山県福祉保健部技監野尻孝子「新型コロナウイルス感染症の県内の第六波の現状」2022年〈https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/041200/d00203179_d/fil/kouhyou23.pdf〉令和6年9月2日アクセス
- (5) 和歌山県立博物館編『先人たちが残してくれた「災害の記憶」を未来に伝える一命と文化財とを守るために―Ⅶ【田辺市・上富田町】』（実行委員会、令和4年（同館ウェブサイトでも公開〈<https://hakubutu.wakayama.jp/cms/hakubutsu-management/contents/uploads/2022/02/minibook202202.pdf>〉）令和6年9月2日アクセス）
- (6) 「災害の記憶」事業との共催ではないが、田辺市立田辺歴史民俗資料館は、令和4年2月26日から3月27日まで災害資料を展示する企画展「田辺市に残る災害の記録」を開催した。
- (7) 和歌山県立博物館『現地学習会「歴史から学ぶ防災2021―命と文化遺産とを守る―」』（https://www.youtube.com/playlist?list=PLCqUtN14-R4FFJ_asQN9bI-LhuR7O1sF）令和6年9月2日アクセス
- (8) 文書館との共催ではないが、報告会と同じ会場にある田辺市立田辺歴史民俗資料館は、令和6年3月2日から3月31日まで企画展「災害の記憶」を開催した。
- (9) 「第57回「災害の記憶」を伝える石碑と古文書―地域に眠る『災害の記憶』と文化遺産を発掘・共有・継承する事業より―」（https://www.lib.wakayama-c.ed.jp/monjyo/garally/panel/panel_ichiran.html）、「『災害の記憶』を伝える石碑と古文書―「地域に眠る『災害の記憶』と文化遺産を発掘・共有・継承する事業」より― 坂口俊夫家文書「津浪之由来」（令和3年4月9日～令和3年6月9日）」、「同 瀬戸家文書「日高川河口絵図」（令和3年6月11日～令和3年8月11日）」、「同 塩崎家文書のうち津波関係文書（令和3年8月13日～令和3年10月21日）」〈https://www.lib.wakayama-c.ed.jp/monjyo/gyouji/case_ichirann.html〉
- (10) 玉置将人「県立串本古座高校・県立文書館共催「百年の青春 はまゆう館」開設・「中根文庫」デジタルアーカイブ公開記念歴史講座」（『和歌山県立文書館だより』第61号、令和4年、p.5）、文書館編・刊『古文書・公文書等の収集・保存・整理・活用―和歌山県立文書館の業務―』（令和5年）p.50,51
- (11) 文書館ウェブサイト 〈https://www.lib.wakayama-c.ed.jp/monjyo/gyouji/case_ichirann.html〉

- (12) 本誌p.16~17、「和歌山県立文書館開館30周年記念歴史講座「先人たちが残してくれた『災害の記憶』を未来に伝える」」（『和歌山県立文書館だより』第65号、令和6年、p.8）
- (13) 「国際会議「アジア太平洋地域における文化財防災の現状と課題Ⅲ」にて和歌山県における「災害の記憶」事業の取組について報告」（『和歌山県立文書館だより』第65号、令和6年、p.7）
- (14) 『目録』は、和歌山県教育委員会が昭和40年度から昭和50年度にかけて「県下各地に所在する古文書類について、散逸・亡失を防ぐため所在情報を緊急に調査し、現状の実態を把握して、保存対策の基本計画の策定に資することを目的に」実施した調査の成果で、計11冊にわたり合計724件の文書群の目録が掲載されている。田辺市・上富田町域の関連目録は、『和歌山県古文書目録Ⅳ 日高川流域古文書調査報告書』（昭和46・47年度調査、昭和51年刊）、『同Ⅴ 上富田川流域古文書調査報告書』（昭和48年度調査、昭和52年刊）、『同Ⅵ 富田川流域古文書調査報告書』（昭和48年度調査、昭和53年刊）、『同Ⅶ 日置川流域古文書調査報告書』調査年度不明、昭和54年刊）、『同Ⅷ 東牟婁地方調査報告書（Ⅱ）』昭和50年度調査、昭和56年刊）及び『同Ⅹ 県下古文書調査報告書（追録）』（昭和50年度調査、昭和57年刊）。
- (15) 前回の民間所在資料調査とは、平成9年度から同17年度にかけて「平成の大合併」以前の県内旧50市町村ごとに文書館から依頼又は委嘱して設置した「民間所在資料調査員」（平成9年度～同11年度は「地域史料保存調査員」）が、各市町村教育委員会等の協力を得て行った調査を指す（拙稿「民間所在資料保存状況調査結果報告」（『和歌山県立文書館紀要』第12号、平成19年）。田辺市域においては、平成9年度から同11年度までは旧本宮町域で坂本勲生地域史料保存調査員により13件、同12・13年度は旧田辺市域、旧中辺路町域及び旧大塔村域を調査対象地域として岸彰則、池田裕之及び洞口久善の各民間所在資料調査員により3市町村で計48件の調査が行われ、同14・15年度には旧龍神村域を調査対象地域として古久保健民間所在資料調査員が13件の調査を行った。上富田町については、同12・13年度に谷本圭司民間所在資料調査員が37件の調査を行っている。
- (16) 保管場所の移動を伴わない代替わりに限る。
- (17) 『田辺市統計書 令和5年度版（令和6年3月発行）』（https://www.city.tanabe.lg.jp/kikaku/toukei/files/tanabe_statistical_report_R5.pdf）令和6年9月2日アクセス
- (18) 「田辺市の指定文化財－有形文化財－」（田辺市ウェブサイト（https://www.city.tanabe.lg.jp/bunshin/bunkazai/shiteibunkazai_yuukeibunkazai.html）令和6年9月2日アクセス）
- (19) 現田辺市は広大なため、地元の地方自治体とは言えども、出所と現保管場所の距離が遠いという問題はある。
- (20) 前掲注（14）目録Ⅳp.77～96。ただし、「一括」を1点として数えた。
- (21) 前掲注（14）目録Ⅸp.85～141。ただし、「一括」を1点として数えた。
- (22) 文化庁「文化財保護法及び地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律の概要」（https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/pdf/r1402097_01.pdf）令和6年9月2日アクセス
- (23) 現田辺市における文化財収蔵施設（歴史資料保存利用機関）については、合併協議段階から「これらの施設は一定の充足度があり、また、こうした施設の維持管理経費の負担も大きいことから、合併後の自治体の人口規模に見合った整備水準について、既存施設の活用も含め、十分に検討する必要がある」との認識が示されている（田辺周辺市町村合併研究会「田辺周辺10ヶ市町村の合併にかかる将来構想基礎調査報告書」平成14年、p.79（https://www.city.tanabe.lg.jp/kikaku/gappeikyo/pdf/houtei/shourai_houkoku.pdf）令和6年9月2日アクセス）。ここでの議論は、施設の統廃合を示唆しているように読めるが、少なくとも文化財の収蔵スペースに関しては、現状は「一定の充足度がある」とは言えない状況になりつつあるのではないだろうか。
- (24) 和歌山県内における改正文化財保護法と地域の文化財保存に関する議論については「特集 改正文化財保護法と和歌山の文化・文化財の未来」（『和歌山地方史研究』第78号、2019年）参照

〔謝辞〕

令和3～5年度の「災害の記憶」事業及び民間所在資料調査では、田辺市教育委員会文化振興課及び上富田町教育委員会の全面的な御協力をいただきました。また、多くの方に調査並びに現地学習会及び報告会の運営で御協力いただきました。末筆ながらここに記して深謝申し上げます。